

## 案内

### 青山学院創立記念日

11月16日(水)は、学院創立137周年記念日です。学院のルーツをたどると、1874(明治7)年に東京・麻布の本村町に開設されたスクーンメーカーの女子小学校に行きつきます。ドーラ・E・スクーンメーカー(1851~1934)は、23歳の若さで米国のメソジスト監督教会から初めて日本に派遣された女性宣教師でした。彼女は米国で小・中学校の教師をした経験を生かし、小学校、しかも女子教育からその働きを開始しました。

しかし当時の封建的な日本社会は女子教育を行うまで発展しておらず、教具もままならないまま、10畳たらずの部屋に男子を含めて数人での授業でした。やがてそれが、「救世学校」「海岸女学校」と発展し、別に発展してきた「美會神学校」「耕教学舎(東京英学校)」と合流して青山の地で「青山学院」となり、現在に至っています。その間の多くの先達の信仰的な祈りと努力が、今もキリスト教信仰にもとづいた学問教育の伝統となって青山学院に脈々と流れています。

### ランチタイム・コンサート

日時 11月24日(木) 12時35分~13時5分

場所 相模原キャンパス ウェスレー・チャペル

演奏 作井清雅子(大学オルガニスト)

### 青山学院クリスマス・ツリー点火祭 ~降誕を待ち望む礼拝~

イエス・キリストの降誕を待望する「待降節」を期して礼拝を行い、各キャンパスのクリスマス・ツリーに灯をともします。当日は5時限目を30分短縮して行います。

日時 11月25日(金) 相模原キャンパス 16時30分~17時10分

青山キャンパス 17時20分~18時

- 礼拝堂は、神に礼拝を捧げるための神聖な場所です。堂内では、私語を慎み、静粛を保つよう心がけて下さい。
- 飲食物の持ち込みは禁止です。携帯電話の電源は必ず切って下さい。礼拝堂内では脱帽して下さい。
- 礼拝の中で、「祈祷」の時には、目を閉じ、手を組み、頭を垂れ、祈りにふさわしい姿勢を取り、祈る人の言葉に集中して下さい。
- 礼拝とは、前奏、讃美歌、聖書朗読、説教、祈り、後奏までを含んだものを言います。説教が終わったとたんに退席するなど、礼拝途中での出入りは慎んで下さい。

# 青山学院大学礼拝週報

2011.11.14.  
No. 23

神の国節第12週

## 青山学院の歩み [22]

かつ た ぎん じ ろ う  
勝 田 銀 次 郎

第四代高木院長の学院拡張計画は校友の間に熱心な賛同を得ることができ、優れた校友たちが次々と現れて、母校発展のために惜しみない援助を捧げました。その一人に勝田銀次郎という大先輩がいます。

勝田は1873(明治6)年に愛媛県に生まれ、1892(明治25)年に東京英和学校を卒業し、1916(大正5)年には船舶関係を扱う勝田商会の社長になり事業を成功させました。勝田はまた、母校愛に篤く、教育事業の重要さをよく知る人物で、拡張計画に係る建設費一切の寄附を約束したのです。この寄附により1918(大正7)年に、まず院長館ができ、次いで煉瓦造2階建、総面積600坪という目の覚めるような美しい校舎が建てられました。その年の学院創立記念日には落成式が挙行政され、この校舎に「勝田館」という名が与えられました。式には全生徒900余名、来会者600名が集まり、大隈重信、井深梶之助他の演説があり、「実に学院ありてより未曾有」の盛会であったと伝えられています。



## 今年度の主題聖句

夜は更け、日は近づいた。だから、闇の行いを

脱ぎ捨てて光の武具を身に着けましょう。

(ローマの信徒への手紙 第13章12節)